

◆ 2021 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 かわごえ里山イニシアチブ

24A-21

代表者：代表理事 増田 純一

URL : <http://kawagoesatoyama.ciao.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

農薬は、労働力を削減し、効率的なお米作りに劇的な効果をもたらす一方、ネオニコチノイド系の農薬は、日本では残留農薬基準が年々大幅に緩和されています。このままでは、お米や野菜はネオニコチノイド系の残留農薬だらけとなり、生態系は破壊され、里山や日本の美しい田園風景は消えてしまいます。そこで、環境に優しい田んぼをフィールドにした活動「生きもの育む田んぼプロジェクト（以下、田んぼPJ）」を行っています。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

2021 年は会員 70 名、田んぼ PJ 参加者 30 名で活動が始まりました。4 月 3 日に恒例の村人総出で行う堀さらい（約 50 名、里山 10 名）、4 月 4 日に環境のバロメータといえるミツバチの生態を勉強するために、養蜂家による実地を交えた養蜂講座を行い、以降、毎週日曜日毎にミツバチの世話や講座を行いました。4 月 25 日に種まき（15 名）で育苗が始まり、田植えイベントはコロナ禍で中止し、5 月下旬から機械植えを始めました。6 月 26 日、恒例の生きもの観察会（35 名）。7 月 10 日にマコモ葉収穫の日本薬科大学の農業体験（10 名）を行いました。7 月 18 日、25 日他、蜜源や田園風景となるひまわりの種まき大作戦（延べ 35 名）、8 月 22 日、かかし製作と設置（12 名）、9 月 19 日は、かわごえ里山始まって以来の手刈りをして、はざかけ（20 名）という昔ながらの田んぼの田園風景を復活させました。11 月には、米づくりの準備としてストロベリーキャンドルやレンゲの種まきを行いました。12 月 12 日、正月づくりのミニイベント（10 名）、12 月 25 日は川越八幡宮奉納用の大しめ縄飾りづくり（3 名）、稲作文化の伝承として 1 月 8・9 日はマコモ葉の最終刈り取りと野焼きを行いました。

3. 活動の成果

コロナ禍の中で軒並みイベントの中止など活動の縮小を余儀なくされました。そういう中でも、地域に根ざした田んぼ PJ を行うことができ、工夫をしながら必要最小限の人員で米づくりや生物多様性の向上に寄与することができました。また、都会型農村の特徴を活かし、田んぼの多面的機能を活用し、健康で豊かな地域づくりの田んぼ PJ を行うことができました。

4. 今後に残された課題

コロナ禍の中、小規模でも食料自給は止めるわけにはいきません。したがって、いかなる環境にあっても持続可能な活動ができる体制を確立していく必要があります。

また、イベントはコロナ禍でもマイクロイベント的なやり方で工夫していく必要があります。助成金の比重を少なくした経済的自立の道を工夫していく必要があります。

